

公益社団法人信和会 2018年度事業活動・経営報告(抜粋)

2019年5月15日 法人決算監査
2019年5月21日 法人常務理事会
2019年5月28日 法人理事会

【1】事業活動報告

(1) 事業活動の概況

信和会は、2017年度到達を踏まえて、2018年度事業計画の推進として以下の品質目標(3つの柱と7の小項目)を掲げ、実践のために全力を挙げました。取り組むに当たって、引き続きPDCAサイクル(Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善))の運用を重視し、四半期ごとにそれぞれの課題の進捗状況を集約し、到達を踏まえて次の四半期方針を策定して実践する仕組みをとり継続して取り組みました。

信和会は2018年度の事業計画の柱として、「品質目標」を「目標」と置き換え、「力を合わせて憲法改悪阻止・社会保障充実の運動を広げ、つながりを強めて地域に根ざす信和会事業を発展させよう!～事業・経営・街づくりの各分野にわたって、共同組織との協力関係を一層強化して前進しよう～」をスローガンに、

1. 質の目標

法人・事業所・部署および連携上の重要事項を日常的に素早く共有し、患者・利用者・他事業所・地域への発信力と分かりやすさを強める。—「共通目標」

2. 事業の目標

直面する事業を着実に進め、次の事業を見通す作業を進める。

○南館リニューアル事業を完遂し、新病院の確実な稼動と医療構造転換を通じた確実な経営改善を達成する。—「本部目標」「個別要請目標」

○東山リニューアルの着工にこぎつける。—「本部目標」「個別要請目標」

○法人中長期計画の策定を意識し、南館リニューアルに伴って確保した(田中ビルを含めた)法人所有の病院周辺施設建物の法人的な有効活用方法の計画を確定する(病院グランドオープン時期までに)。—「本部目標」

3. 組織強化と理念的活動の目標

①運営を効率化し、人材委託比率を2018年度末84%まで下げる。2017上半期85.5%—「共通目標」「本部目標」

②法人統一SDH情報フォーマットを作成する。—本部目標

③憲法改悪阻止のための具体的な学習と行動を特別に位置づける。—共通目標

以上、3つ大きな柱を目標に掲げて実践しました。

品質目標を踏まえた予算の柱は、2018年度法人目標を確認した上で、2017年度決算見通しと資金予測を前提に、資金計画でポイントとなる①増加する退職金 ②年間投資 ③リース料の増加 ④建設費用の返済 ⑤償却費の増加などの要素を反映させ、安定的に運用ができる期末での現預金残高を試算。現預金残高には上記費用とあわせて、東山建設費用3億・協力金返済に関連する銀行返済なども加味して年間必要最低利益について検討を行い、必要最低利益を総事業収益比1%5000万以上・年間投資(南館医療機器3700万+通常投資5000万+中長期2500万)を理事会として決定しました。

格差や貧困が拡大し受診をためらう事態が進む中で、公益社団法人としての活動をより重視し、無料低額診療事業や社会的貢献活動などを更に実践しました。

各エリア・事業所・各領域の事業のポイントは以下の通りです。この視点から、エリア・事業所の年間到達の分析と総括、次期に繋がる課題を鮮明にする必要があります。

詳細は、添付した別紙事業所報告を参照してください。

エリア・事業所	2018 年度事業・予算のポイント
あすかい病院エリア	<p>病院エリアの目標を以下 3 つの柱の実践と設定して実践します。</p> <p>①病院エリア全職員の力を結集して共同組織とともに、新病院の医療機能を最大限に生かして、地域で支持され信頼される病院を築こう。その達成のために経営構造の転換を行い、経営基盤を確立しよう。</p> <p>②病院エリア(医療・介護)を病院・在宅という一つの大きなチームとして活性化させ、他医療機関・施設・事業所、幅広い地域のネットワーク、行政などと良い連携を築き、貧困や格差・超高齢化社会に立向かう、人権を尊重した地域包括ケアの実現をめざそう。</p> <p>③安全・倫理・共同のいとなみを軸として医療・介護の質の向上を常にめざそう</p> <p>入院分野では、病棟構成の選択として緩和ケア 2(2018 年 4 月段階の南 3 階障害者 34 床を 10 月以後転換、1 年の実績後 1 へ類上げ)・回復期リハ 1 維持(平均在院日数 84.5 日、前年 86.4 日)</p> <p>・地域包括ケア 1 維持(平均在院日数 27.6 日、前年度 28.9 日)・一般急性期 10 対 1[入院料 4]維持(平均在院日数 16.1 日、前年度 18.0 日)とします。ベッドコントロール機能の見直しと強化連携機能の強化・一般(S2) 障害者=緩和ケア(S3)の長期入院患者対策・エリア連携機能強化を重視して取り組みます。</p> <p>外来分野では、診療単位の再編吸収・救急受け入れ実績の維持と増を検討・外来患者の困難情報取得(SDH)で入院前の早期の介入、在宅訪問診療へつなげる・健診後2次健診の促進、往診センターでは実請求件数として 350 件(訪問延べ回数 650 件)を確実にやり遂げる目標とします。</p> <p>保健予防分野では、2017 健診件数実績の 20%増・友の会健診増 1000 件と設定します。各種の介護サービスの利用を引き上げます。</p> <p>費用管理を強め、法人目標である人・材・委費用 84%以内を必ず実現します。</p>
川端診療所エリア	<p>外来は 2017 年実績より件数を 5%増の達成を目指す。地域は高齢者 が多く、今まで通院していた患者が通院できなくなり近隣への転医の現実がある。患者の利便を図り受診に結びつける。よりかかって安心安全と思われる医療サービスについて検討する。透析は月 98 件の維持を目指す。透析の新患は他院からの紹介及び、転医で増を図るしかなく今後とも大学病院や府立等とのつながりを最大限に維持していく。中央病院との医療連携も引き続き継続する。病院とあわせて信和会は 50 床を超えるベッドの強みを患者増に結び付けていく。鍼灸治療院は配置人員に見合う収益確保、資格を生かした働き方の改善をすすめます。</p>
東山診療所エリア	<p>患者件数については 2017 年度平均(504 件)の維持。前年度方針を堅持する。診療体制は、前年度体制を維持。内科、泌尿器科、神経内科やフットケア、高齢者医療、慢患管理を更にすすめ、定期的な検査の実施など全患者さんの全身管理を徹底し件当円 10,000 円以上を維持する。中断患者対応や気になる患者訪問、法人減免相談や諸制度の活用など相談活動を積極的にすすめ、患者の受療権を守る活動を友の会とも共同し取り組む。第一日赤や京大からの紹介はもちろん、友の会の役員さんや地域の方からの紹介もあります。患者満足度を向上させ、送迎サービスや接遇 改善で一度来られた患者さんを減らさない努力をします。</p> <p>エリア内の医療分野と介護事業所の連携強化を図り、介護系サービスの利用をより引き上げていきます。</p>
洛北診療所	<p>収益は所長交代や医師体制変更に伴う影響は想定されるが 2017 年度実績を目指す。所長に続き、看護師長も期中の交替となるため、共同組織・地域・患者との信頼関係の構築により一層努力し、地域になくってはならない診療所としての特色を打ち出していく。</p>
大宅診療所エリア	<p>【大宅診療所】</p> <p>①外来・健診増月 1200 件を維持する。在宅 80 件の管理件数確保</p> <p>②火曜診体制・整形外来看護体制の安定化を図る。共同組織との連携強化。</p> <p>③通所リハビリ、先ず利用者確保を最優先に・介護報酬改訂に対応した収益構造の確立と機能の見直し。</p> <p>【旧総合ケアステーション山科南】</p> <p>①ヘルパーステーションとまとの 17 年度中の事業廃止に伴う継続した対応課題</p> <p>②虹の経営改善⇒事業所単独として予算に責任を持つ管理運営と法人連携強化</p> <p>③ひまわり⇒赤字からの完全脱却⇒予算に責任を持てる事業所へ。2018 年度完全黒字事業所</p>

	<p>へ転換。管理者育成</p> <p>④法人内外事業所との連携強化</p> <p>⑤各事業所への営業、広報活動の強化。</p>
茶山のさと	<p>介護報酬はプラス 0.54%の改定率と言われている。全ての単位数が明らかになっているわけではないが、入所系・通所系ともに基本報酬の単位数が見直されており、茶山のさとへの影響でみると療養強化型老健は微減。短期入所も同様。通所リハは 6 時間以上のため減となる見込み。新設されたサービス単位や基準が緩和されたものなど、漏れなく算定できるよう対策が必要目標ベッド数を入所 57 床、短期入所 10 床の稼働とする。</p> <p>2018 年度茶山のさと目標案としては、以下 5 つの柱で討議中。</p> <p>①療養型老健施設としての役割の発揮と、事業をささえる安定した経営をおこなおう。</p> <p>②地域の中での「茶山のさと」の存在感アップ。</p> <p>③介護安全を位置づけ、安心・安全な介護実践をすすめる。</p> <p>④情報共有はすばやく、わかりやすく。コミュニケーションと発信力をたかめよう。</p> <p>⑤いまこそ憲法を守るために学び行動する。</p>

以上の事業と経営計画を進めるため、法人は法人常務理事会及び病院常務会の下に以下のプロジェクト(チーム)を設置し推進を図りました。

<事業展開>

- ①南館建設委員会 <南館完成、整備工事(南2、南3)完了(12/15)のため終了を確認(1/15 理事会)した>
- ②東山新築移転プロジェクト <継続・法人プロジェクト設置し運営>
- ③おたっしや健診プロジェクト会議 <継続>
- ④住まい看多機推進プロジェクトチーム会議 <新設・継続>

→2018 年度「法人目標の 2(事業の目標)の 3:法人中長期計画の策定を意識し、南館リニューアルに伴って確保した(田中ビルを含めた)法人所有の病院周辺施設建物の法人的な有効活用方法の計画を確定する(病院グランドオープン時期までに)。—「本部目標」として具体化を検討した

- ⑤あすかい病院・茶山のさと連携協議 <継続>

<機能と運営>

- ①保険薬局等他法人との懇談と共同 <継続>
- ②ISO 課題の推進 <継続>
- ③法人幹部人事検討チーム <継続>

(2) 事業計画・目標の実践と到達

品質目標の到達評価と課題整理は、四半期毎の到達分析と次四半期課題整理を毎回の理事会運営の中で鮮明にして取り組みを積み重ねました。2018 年度目標を検討する上では、第 3 四半期までの到達を踏まえた課題設定がされました。併せて、到達と課題に関する分かりやすい共有が促進されました。品質目標や数値目標数がかかり多いと、ISO 認証審査でも指摘があったように、2018 年度目標は大項目としての柱を 3 つ、小項目として 7 つをすすめました。2018 年度目標に関する到達は以下の通りです。

大きな柱	小項目	年度到達と評価
<第1の柱> 質目標	法人・事業所・部署および連携上の重要事項を日常的に素早く共有し、患者・利用者・他事業所・地域への発信力と分かりやすさを強める	<p>○川端エリア:エリアとしての連携上の課題を共有化していく場をラインとして位置づける。毎回管理会議の議題項目として位置づけて検討している。管理会議で 3 事業所の共通する課題や企画の共有化が図られている。引き続き管理会議の議題として位置づける。</p> <p>○大宅エリア:(大宅診療所)パンフレットの持ち帰りは毎月一定数あり患者様への健康・保健予防に関する啓蒙活動への(発信)は出来ている。然し他事業所・地域への働きかけが出来ていない。</p> <p>(虹)SDH の視点で見る特徴的な事例がありながら大宅診療所との情報共有が部分的にしか出来ていない。</p> <p>(ひまわり)エリア内どの事業所より参加・懇談・発信が出来ている。それを大宅エリア全体で共有出来ていない。虹同様大宅診療所側の問題として時期優先</p>

		<p>課題とする。</p> <p>○あすかい病院エリア:経営改善に向けての情報発信 経営構造転換ニュースは31号まで発行。閲覧数も一定数になっており、毎月の経営結果をすばやく知ることが定着してきている。徐々にではあるが経営に対する意識が高まってきている。また信和会63年の歴史を知る学習会を開催中で、歴史的経過から経営問題を考えることを進めている。エリア介護事業所は今年度経営が非常に厳しい状況になっている。今回改定対応として連携会議を開催し医療介護の入院から退院の流れのフローチャートづくりまでこぎつけた。次期への課題は「南館リニューアル事業完結として、この地域における役割・期待と新たな病院機能とのすり合わせ、ポジショニングを明確にした病院機能の確立、そしてその発信。」①経営結果の素早い発信とすばやい対応。②外来患者減の分析と新たな対策方針確立。ふたつの柱を軸とした戦略づくり。③緩和ケア病棟の確実な稼働 ④病院全体、エリア介護事業所が一体となった緩和医療の推進。⑤事業利益で黒字を展望する基盤づくり。</p> <p>○茶山のさと: 内部の情報共有に関しては会議報告の書式の整備等をすすめた。管理会議での各委員会の報告は幾分わかりやすくなった。たよりの発行やSNSでの情報発信は継続的に行っているが、ホームページとの連携強化を課題として検討中。職員会議での茶山のさとの伝えたい魅力のグループ討議は、他のスタッフが感じている魅力を知る機会になり、また、普段の仕事そのものに魅力が潜んでいることも共有できたのではないかと。次年度の目標でもあり活かしていきたい。次年度への課題としては“発信”の点では、2019年度の目標にも掲げられており、魅力を見つけることと発信をすることを進めていきたい。また、例えばホームページの閲覧者は、利用者や家族だけでなく、関連事業者や求職者もある。それぞれに伝えたい情報は少しずつ違う。そういった魅力を発信したい先に応じた対策も考えて具体化した。</p> <p>○東山診療所エリア:コメディックスの学習会は2回実施。伝達学習は不十分な職場有。ホームページ作成は広報委員会2回開催もう少しで完成。次年度への課題は、コメディックス学習会くみ泉涌寺湯DSで実施。ホームページの完成。</p> <p>○洛北診療所:健康相談会の開催は継続的に実施できた。(隔月開催)相談人数は少数ではあるが、張り紙をみて飛び込んでくる方や健診を受けていない方などもおられた。地域の中で気軽に相談できる場所になればと思う。次年度への課題は、事業所としての年間計画を立て共同組織と一緒に活動を行えるようにしたい。</p>
<p><第2の柱> 事業の目標</p>	<p>南館リニューアル事業を完遂し、新病院構想の確実な稼働と医療構造転換を通じた確実な経営改善を達成する</p>	<p>南館リニューアル事業は、第三期工事で遅延が発生し完成時期の変更の判断を行った。第四期整備工事の病棟改修工事をベッド減からくる運用面と収益面から検討。経営構造転換はこれから、毎月の経常利益予算を確実に達成する。南館リニューアル事業は、第四期整備工事の進め方について改修工事中のベッド削減数の推移を精査し、運用面と収益面でプラン検討した結果として、南3病棟の改修工事を二期に分けて行うことを決定した。緩和ケア病棟21床開設のための看護師確保はまだまだ困難な状況ではあるが、12/1、21床緩和ケア病棟入院料の届出を行った。行政申請は、10/23(火)病院構造設備使用許可申請、11/09(金)使用許可立入り検査、11/22(木)使用許可証発行。12/5第四期整備工事病室部分の変更許可申請、使用許可申請を行った。11/23内覧会を開催、200名の参加を得た。午後からただちに第三期棟移転作業を行い、11/26から外来オープン。12/1・2 医局等移転作業、12/16には第四期整備病棟改修工事が完了。南館リニューアル事業がすべて完了する。12/17南館グランドオープンとなる。経営状況は、第二期四半期(上半期)は赤字ではあるが経常利益予算を大幅に超過(赤字幅を縮小)する見通し。下半期は、11月・12月工事の影響でベッドの大幅な減少が発生、入院収益の確保が困難となる、工事の遅れと予算との差異が発生、上半期の到達が重要となる。下半期は限定された条件のなかでど</p>

		<p>れだけ収益を積み上げられるかがカギとなる。緩和ケア病棟は、看護師体制から21床全床稼動に至っていない。体制確保と組合協議を丁寧に行い、全面稼動をめざす。</p>
<p><第3の柱> 組織活動と理念的活動の目標</p>	<p>法人中長期計画の策定を意識し、南館リニューアルに伴って確保した(田中ビルを含めた)法人所有の病院周辺施設建物の法人的な有効活用方法の計画を確定する</p> <p>運営を効率化し、人材委託比率を2018年度末84%まで下げる。2017上半期85.5%。</p>	<p>検討PJは10回行った。2019年5月法人常務理事会へ答申を行った。第1に病院エリアでの看多機建設の意義は①入院患者の退院調整と在宅療養の円滑化②宿泊機能を持つ新たな介護施設による介護事業の広がり③高原デイサービスの施設老朽化の解消④リニューアルで残せなかった病床の宿泊機能としての復活の4点にまとめられ、病院機能と在宅訪問診療、介護サービスなど病院エリア機能にあらたな在宅サービス機能を有する。このことにより、病院病棟からの在宅療養の選択肢がふえることとなり、より在宅へもどる患者・利用者へのサービス強化となる。また国がおしすすめる地域包括ケアの回復期部分を担うこととなり、病院の入院機能を補完する。第2に建設予定地の想定から、建設条件から仮図面をもとに検討した。収支や人材配置検討を加えている。通い機能(最大18名)とあわせ泊まり機能(最大9名)を有することができる。収支は定員最大で計算しているので、経常黒字予測となっている。第3に建設費用と補助金についてはそれぞれ、検討をすすめる。第4に今後の建設に関わる具体化について。今後は、病院エリアでの建設チーム発足など具体的建設にむけての詳細[事業化や母体事業所、人材育成・確保と収支予算化など]をつめる作業を行っていく必要がある。病院エリア内での計画具体化を行なうこととして、本PJを終了する。第5に田中ビルの今後の活用について。この件に関しては、具体化はできていない。引き続き法人本部において検討を行う。</p> <p>○法人全体として、83.1%の到達となった。</p> <p>○川端診療所エリア:数値を管理会議で検討した。結果、居宅は業務改善で居宅は少しずつ残業時間が減少しているが、通理は薬体制の関係で数値は並行している。リハ欠員補充を早期に改善し座苦行時間を減らす。事務の業務委託は現時点で継続している。次回の契約更新で見直す。</p> <p>○大宅診療所エリア:全体のホームページ見直された。HPを見た方から意見が寄せられた。(虹)残業時間申請は減ってはいるものの、課題も多く残っている。(所内全体では36時間以内/月となっている。)引続き残業の見直しを図る。(ひまわり)収益目標達成に向けスタッフ全員で目標収益額を意思統一し、新規依頼を断らない体制を続けた。業務が忙しくなる中、残業増傾向の時は、部会にて業務の簡略化を検討し、大きな残業増には至らなかった。しかし、10月に実施した利用者家族満足度アンケートにおいて、接遇の点で評価が下がった。収益と質の高い安心満足できるサービス提供のバランスが今後の課題である。累積予算には届かないものの同年同月時点で△2151/千円の赤字減。訪問管理件数は必ず減少するが、それを補う日常的な努力が伺える。</p> <p>○あすかい病院エリア:業務委託費の見直し、警備業務は5月で契約終了、営繕業務は7月で契約終了。医事当直業務は、7月から体制見直しで委託費用の減額。人件費管理(人員体制、超勤管理)を強化していく。警備業務委託、営繕業務委託はすべて契約を終了した。また事務当直業務の見直しを7月完了させた。現場際には大変な状況はあるがそれぞれ踏ん張っている。①人件費 時間外手当の更なる削減(費用削減と職員の健康管理)②物流業務の抜本的見直し③清掃委託業者の撤退、新規事業者との価格交渉。</p> <p>○茶山のさと:2019年度も予算達成を大きな目標に掲げる。稼動ベッドのコントロールとあわせ、日当円の高い運用も意識したい。また、費用のコントロールも課題。突出した費用執行の項目があるわけでもないため、細かな費用の節減などが重要になる。人材確保の課題は、収益に直結(STの確保など)する面もあるので、重要な課題と位置づける。</p> <p>○東山診療所エリア:くるみは収益増に向けシフトの効率化を継続、空き情報の発信は出来ている。予算達成。訪看は収益不足で予算未達成。人事異動実施で人件費を削減。居宅は予算件数未達成。くるみは次年度に向けて人員</p>

	<p>増で件数を増加。訪看は定年を迎える職員がおり、人員の安定定期確保と件数の確保。居宅は件数増。</p> <p>○洛北診療所:年間を通して集中する月はあるが、平均的に予約が入るようにしたい。(結果返しも迅速に対応できる)二次健診フォローは不十分であった。要精査の方を追い切れていない。事務と看護の連携を行い、受診が必要な方には丁寧な対応を行いたい。→患者増に繋げる。</p>
法人統一SDH情報フォーマットを作成する	<p>今までのその患者への視点やアプローチだけではなく、一定の統一されたアンケートによって患者の背景が違う視点から見出されることが大事、しかし細部にまで聞き取ることが必要でありそこにかかる時間や患者自身の個人情報にも幾分立ち入ることもあり、聞き取りの職員だけではなくその周りの職員の十分な理解が必要となる。電子カルテを開けたらいろいろな職種からSDHに基づいた情報が網羅され活用されていくことを目標として、アンケートは2019年3月末締め切りで以下の事業所の割り振りとりくんだ。尚、対象患者は医療の患者だけではなく介護の利用者も含むこととした。あすかい病院50 川端15 東山10 大宅15 洛北10。全体週集計として15事業所(40部署)から集約があった。くらしむきアンケートは113名(114件)、内アンケート同意確認は82件、職員アンケートは69件が出された。2018年12月から2019年3月までの集中期間を設定し目標を100件とした。今後はこの取り組みを通じた職員の取り組みを重視し、また、結果についてどう生かして活用していくのかを検討していく。</p>
憲法改悪阻止のための具体的な学習と行動を特別に位置づける	<p>○川端診療所エリア:行動未参加の職員のなくすことが課題であったが、まだすべての職員に至っていない。</p> <p>○大宅診療所エリア:25条宣伝は地域を限定し責任所在を明らかにした上で、山科社保協を再開し再協議全ての構成団体に再度よびかけることを予定したが進捗なし。</p> <p>○あすかい病院エリア:憲法カフェの継続。原水禁世界大会へ5名を派遣。有志による平和を考えるつどい(被爆者の体験談)7/31開催。憲法を基軸においた医療介護の実践、その意識を創りあげる「しかけ」の具体化を検討。全日本民医連「綱領と歴史を学ぶ大運動」に憲法を踏まえた学習の機会として捉え取り組む。</p> <p>○茶山のさと:大きく進捗しなかった。SDHの視点を身につける取り組みとしては中堅研修の中で進めてきた。発表の機会を持った。憲法学習は機会作り、仕組みづくりともできなかった。憲法学習の仕掛けづくりができないままであった。来期は全体的な目標の中に“憲法学習”の文字は入らないが、職員教育の中で位置づける機会を検討するなど、改憲に向けた動きに抗う取り組みをしていきたい。</p> <p>○東山診療所エリア:憲法改悪阻止のたたかいは原水禁世界大会代表派遣や沖縄知事選挙支援の取り組みや憲法カフェなど取組み、職員の理解と行動が広がった。3000万署名は目標達成まで8筆の到達、あとわずか足踏み状態。引き続き、憲法カフェや沖縄連帯の取り組み(2/14 沖縄県民投票連帯プレス前宣伝、2/21-23 千住さん沖縄支援派遣)を継続、映画コスタリカの奇跡(2/2)70名参加。</p> <p>○洛北診療所:事務部会内では民医連新聞、いつでも元気の読み合わせの継続を行っているが事業所全体では学習に着手できていない。宣伝は短時間でもあるが、看護師も参加できるようになった。宣伝曜日等具体化したのが、継続的に開催できなかった。職員全体の学習については不十分である。事務は毎月の部会の中で、持ち回りで学習を位置づけた。職員全体の学習会が不十分。今後憲法DVDや綱領ブックレットの活用を行いたい。</p>

上記以外で数値目標にこだわった指標と到達は以下の通りです。

18法人目標 数値追跡①2次健診数															医療部集約												
施設	17実績	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年度計	比較
		変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増		
あすかい病院	690	43	48	39	39	25	29	26	26	19	33	21	10	358	51.9%												
洛北診療所	108	8	7	4	4	2	1	2	5	3	0	3	3	42	38.9%												
川端診療所	51	1	3	1	5	2	3	4	1	2	3	1	6	32	62.7%												
東山診療所	135	6	5	6	5	7	8	10	12	4	0	0	0	63	46.7%												
大宅診療所	520	13	7	17	14	8	4	19	17	15	10	3	7	134	25.8%												
合計	1,504	71	70	67	67	44	45	61	61	43	46	28	26	629	41.8%												

【月次評価】

二次健診数は前年度の集約数値を変更(現通院患者は除く)したので、単純比較はできない。
2018年度健診により、新規に診療に結びついた患者件数は年度経過で、あすかい病院と川端診療所で2017年比較で過半数に到達。

18法人目標 数値追跡②在宅訪問診療件数															変動部分のみ入力 中止数にはマイナスをつける 他は自動計算		
時期	17実績	4月		5月		6月		7月		8月		9月		上半期		17比	上半期到達
		変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増		
第二中央	304	新規 15 中止 ▲7	8	新規 15 中止 ▲10	5	新規 11 中止 ▲8	3	新規 12 中止 ▲11	1	新規 14 中止 ▲10	4	新規 11 中止 ▲9	2	78 ▲55	23	107.6%	327
洛北診療所	54	新規 0 中止 ▲1	▲1	新規 5 中止 ▲1	4	新規 2 中止 ▲1	1	新規 3 中止 ▲3	0	新規 2 中止 ▲5	▲3	新規 0 中止 ▲1	▲1	12 ▲12	0	100.0%	54
川端診療所	40	新規 1 中止 ▲2	▲1	新規 1 中止 ▲2	▲1	新規 1 中止 0	1	新規 1 中止 ▲3	▲2	新規 1 中止 ▲2	▲1	新規 1 中止 0	1	6 ▲9	▲3	92.5%	37
東山診療所	183	新規 7 中止 ▲5	2	新規 2 中止 ▲10	▲8	新規 4 中止 ▲9	▲5	新規 4 中止 ▲5	▲1	新規 6 中止 ▲3	3	新規 7 中止 ▲4	3	30 ▲36	▲6	96.7%	177
大宅診療所	78	新規 2 中止 ▲3	▲1	新規 0 中止 ▲1	▲1	新規 3 中止 ▲2	1	新規 2 中止 ▲3	▲1	新規 3 中止 0	3	新規 2 中止 ▲2	0	12 ▲11	1	101.3%	79
合計	659	新規 25 中止 ▲18	7	新規 23 中止 ▲24	▲1	新規 21 中止 ▲20	1	新規 22 中止 ▲25	▲3	新規 26 中止 ▲20	6	新規 21 中止 ▲16	5	138 ▲123	15	102.3%	674

時期	17実績	10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		17比	年間到達
		変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増		
あすかい病院	304	新規 12 中止 ▲11	1	新規 16 中止 ▲7	9	新規 16 中止 ▲8	8	新規 15 中止 ▲8	7	新規 15 中止 ▲13	2	新規 9 中止 ▲10	▲1	161 ▲112	49	116.1%	353
洛北診療所	54	新規 1 中止 0	1	新規 3 中止 ▲5	▲2	新規 2 中止 ▲1	1	新規 1 中止 ▲3	▲2	新規 0 中止 0	0	新規 1 中止 ▲1	0	20 ▲22	▲2	96.3%	52
川端診療所	40	新規 0 中止 ▲4	▲4	新規 1 中止 0	1	新規 0 中止 ▲1	▲1	新規 0 中止 ▲1	▲1	新規 1 中止 ▲1	0	新規 0 中止 ▲2	▲2	8 ▲18	▲10	75.0%	30
東山診療所	183	新規 7 中止 ▲8	▲1	新規 6 中止 ▲5	1	新規 4 中止 ▲6	▲2	新規 9 中止 ▲7	2	新規 9 中止 ▲14	▲5	新規 4 中止 ▲5	▲1	69 ▲81	▲12	93.4%	171
大宅診療所	78	新規 2 中止 ▲2	0	新規 3 中止 ▲2	1	新規 3 中止 ▲3	0	新規 6 中止 ▲3	3	新規 3 中止 0	3	新規 6 中止 ▲2	4	35 ▲23	12	115.4%	90
合計	659	新規 22 中止 ▲25	▲3	新規 29 中止 ▲19	10	新規 25 中止 ▲19	6	新規 31 中止 ▲22	9	新規 28 中止 ▲28	0	新規 20 中止 ▲20	0	293 ▲256	37	105.6%	696

【月次評価】

17年度実績と比較するとあすかい及び、大宅以外は未到達。しかし全事業所合計で行くとあすかい及び、大宅での10%以上の伸びがあり、全体として17年度以上を到達した。

重要な施設課題であった第二中央病院南館の改築事業は、第四期整備工事の南3病棟個室化工事は2018年12月15日に完了し南館リニューアル工事はすべて終了しました。これまでであった長期療養ができる障害者病棟から、新しい病棟機能「緩和ケア」は12月1日に届出を行い開設しました。これにより、病院が構想した新南建設は完成しました。4月1日より「京都民医連あすかひ病院」として新たなスタートを切りました。医療と介護を一体と考え、病院エリアの医療・介護構想として南館リニューアル後の新病院の構想を策定してきたその基本となる考えは、この地域で最後まで安心して暮らし続けられるよう人権を尊重する地域包括ケアを推進することです。高度急性期や急性期の専門的医療は周辺の大病院などに任せ、その後の亜急性期(回復期)の医療および在宅での医療・介護に重点を置き、福祉分野をはじめ関係諸機関との連携を図って病院エリアを一つのチームとして機能させることを目指しました。その目的に沿って、今年3月には居宅介護支援事業所「ケアプランセンター飛鳥井」、「訪問看護ステーションたんぼぼ」、「ヘルパーステーションこでまり」は病院近隣への移動を行いました。

東山診療所の新築移転課題については、建設プロジェクトを継続し検討を進めました。複数の土地情報が寄せられましたが、確定には至っていません。

2019年度は、全体スローガンを「学ぶ・共有する→発信する・連携する・協働することの力で、法人事業とまちづくりを進め、くらしと平和と憲法を守る好循環を作り出そう!」とし、質の目標・事業の目標・組織強化と理念的活動の目標の3つの大きな柱を設定し、具体化するための部署、分野を明確に示しました。

公益事業として認定されているあすかひ病院や茶山のさとはもとより、公益社団法人としてのガバナンスを遵守し、無料低額診療事業や社会貢献活動など公益的活動をより重視して取り組みます。

(3)各事業所の概況については、事業所毎の年度決算資料をご参照ください。

【2】法人組織の概況

(1)社員総会、理事会、常務理事会の開催状況と決議

1)社員総会の決議

開催日時	社員総数	出席(本人、委任)	重要な議事・決議事項
18年06月20日(定時)	118名	117(99.1%)	17年度事業報告・決算報告・定款変更・役員選出

2)理事会の開催状況

開催日時	定数	出席	重要な議事・決議事項
18年07月24日 (第1回)	24	19	病院名を考えるプロジェクト」の第1回会議概要報告、社保・共同組織強化月間の法人方針、西日本豪雨災害支援の取り組み。
18年09月25日 (第2回)	23	18	18年度法人品質目標の進捗と課題、第二中央病院改築事業の進捗及び融資実行状況、秋の共同組織月間の取り組み。
18年11月27日 (第3回)	23	20	上半期経営到達と下半期対策、監査報告、事業計画及び品質目標の進捗、18年度予算・事業計画編成のテンポと品質目標の柱、秋の共同組織月間、賞与短期借入れ、信和会嘱託規定を廃止し県連統一規定「京都民医連嘱託規定」に一本化、北海道胆振東部地震支援の取り組み。
19年01月23日 (第4回)	23	22	第3四半期状況、18年度事業計画と予算、18年度法人目標の確定、第二中央病院名と院長交替確認、秋の共同組織月間の経験交流とまとめ、19年度法人目標の確認。
19年03月26日 (第5回)	23	18	18年度経営・事業状況、法人品質目標の進捗、19年度事業・予算の確定、19年度定時社員総会の招集(6/19 18:00-)、19年度法人機関運営日程の確認。
19年05月28日 (第6回)	23	19	18年度事業・経営決算の確認、19年度事業・予算進捗報告、東山診療所新築移転に係る検討状況について、すまい・看多機推進PJ答申についての方向性の確認、19年度定時社員総会運営と準備状況について、役員選任規定の変更を確認。
平均出席率	83.4%	前期 88.0%	

3) 常務理事会の開催状況

開催日時	定数	出席	重要な議事・決議事項
18年07月17日 (第1回)	9	9	第1四半期経営/品質目標の進捗状況、南館改築、病院名を考えるプロジェクト報告、18 秋の「社保・共同組織強化」月間の法人方針確定、西日本豪雨災害支援の取り組み。
18年08月21日 (第2回)	9	9	高野住宅売買、事業・経営状況、南館改築計画、ISO コンサル契約、すまい・看多機推進 PJ 報告、法人幹部人事。
18年09月18日 (第3回)	9	6	定年延長制について、経営課題、上半期監査準備、品質目標の進捗、南館改築事業、ISO 維持審査報告、北海道胆振東部地震支援、台風 21 号の事業所・地域被害、京都民医連 2018 熱中症調査の取り組み。
18年10月16日 (第4回)	9	9	秋闘対応、定年延長提案白紙撤回され新たに「京都民医連嘱託規定」の制定、上半期経営到達と下半期課題、南館改築事業、共同組織月間。
18年11月20日 (第5回)	9	8	秋闘対応、上半期決算、資金繰り・賞与借入、19 年度予算編成テンポ、ISO マネジメントレビュー、南館改築事業(内覧会 11/23)、茶山のさとの利用者急変対応、年末路上生活者支援行動。
18年12月18日 (第6回)	9	9	19 年度法人目標素案、19 年度予算編成の課題とテンポ、南館改築事業、東山土地情報、すまい・看多機推進 PJ 報告。
19年01月15日 (第7回)	9	9	顧問弁護士交流集会の学習会、第二中央病院院長交代(4/1)・第二中央病院病院名変更(4/1)、経営課題、19 年度法人目標の確定、利益予算及び引き当て数値の確認、南館改築。
19年02月19日 (第8回)	9	8	全日本民医連の綱領と歴史を学ぶ大運動、春闘対応、経営状況、19 年度予算検討状況、看護師キャリア養成諸費用貸付証書の書式変更。
19年03月19日 (第9回)	9	9	経営課題、18 法人目標の進捗、19 年度事業と予算、南館改築、2019 年度法人目標の具体化と集約書式、19 年度新入職員オリエンテーション。
19年04月16日 (第10回)	9	9	春闘対応、法人幹部人事、部委員会の 18 年度総括と 19 年度方針、経営状況、ISO再認証審査日程、社員総会準備、決算監査準備、5 月路上生活者支援行動。
18年05月15日 (第11回)	9	8	18 年度決算・事業総括、定時社員総会運営、住まい看多機プロジェクト答申、19 年 4 月度経営状況、法人目標の進捗。
18年06月18日 (第 12 回)	9	9	定時社員総会準備、法人マネジメントレビュー、19 目標第 1 四半期到達と次期の課題整理。
平均出席率	94. 4%	前期 97. 2%	

社員総会、理事会、常務理事会とも定期的な開催・運営を行いました。前回社員総会は99. 1%参加でした。理事会は、定時社員総会で新理事を選出(定数25名・2名欠員)しました。年間を通した理事会参加は88. 0%から83. 4%と後退しました。常務理事会は97. 2%から94. 4%となりました。

常務理事会運営を補完し課題遂行する目的で、法人事務系常務理事・事業所事務長・病院事務長室・本部員合同会議を毎月定例開催しました。本部事務局常駐管理者会議も月次で開催しました。社員総会にむけて理事確立・幹部人事体制を検討することを目的に、幹部人事検討チーム会議を再会し開催しました。

各部・委員会は定期開催され、諸課題の遂行に当たりました。18 年度年度総括と 19 年度方針を確定し、新年度の課題を鮮明にしました。

全期間を通して、18 年度事業計画の推進を図る運営が貫かれました。病院南館改築事業課題が完成を見たのが特徴です。経営課題や法人目標の実現については、四半期毎に到達と課題を鮮明にして取り組みました。

(2) 施設の状況

1) 施設

病院名変更と旧田中ビルにあった介護事業所は病院近接地へ移動しました。

施設名	所在地	開設年月日
法人本部	左京区田中飛鳥井町 89	1955 年 1 月 12 日
安井病院	左京区田中飛鳥井町 89	1955 年 7 月 11 日 (病院名変更)
京都民医連第二中央病院		1997 年 5 月 1 日 (病院名変更)
京都民医連あすかい病院		2019 年 4 月 1 日 (病院名変更)
ケアプランセンター飛鳥井	左京区田中飛鳥井町 78 変更→左京区田中玄京町 106-2 変更→田中飛鳥井町 46	2000 年 4 月 1 日 2011 年 5 月 16 日 2019 年 3 月 1 日
京都市左京南地域包括支援センター	左京区川端通夷川上新生洲町 97	2006 年 4 月 1 日
京都民医連あすかい診療所	左京区田中飛鳥井町 43-7	1999 年 11 月 19 日
京都民医連あすかい歯科	同上	2004 年 10 月 1 日
川端診療所	左京区川端通夷川上新生洲町 100	1954 年 5 月 7 日
京都民医連洛北診療所	左京区岩倉忠在地町 529	1996 年 10 月 31 日
訪問看護ステーションたんぼぼ	左京区田中里の前町 43 変更→田中玄京町 106-2 変更→田中飛鳥井町 45	1993 年 8 月 31 日 2011 年 6 月 11 日 2019 年 3 月 1 日
訪問看護ステーションたんぼぼ併設ヘルパーステーションこでまり	左京区田中里の前町 43 変更→田中玄京町 106-2 変更→田中飛鳥井町 45	2000 年 4 月 1 日 2011 年 6 月 11 日 2019 年 3 月 1 日
訪問看護ステーションひまわり	左京区川端二条上ル新生洲町 104 リゾテック鴨川 II 1階	2001 年 7 月 1 日 2014 年 2 月 28 日廃止
高原デイサービスセンター	左京区田中高原町 26	2003 年 2 月 1 日
東山診療所	東山区今熊野宝蔵町 43	1952 年 7 月 27 日
訪問看護ステーションどんぐり	東山区今熊野柳の森町 7-14	1996 年 3 月 31 日
訪問看護ステーションどんぐり併設ヘルパーステーションくるみ	東山区今熊野柳の森町 7-14	2000 年 4 月 1 日
泉涌寺湯デイサービスセンター	東山区泉涌寺東林町 20-16	2003 年 2 月 1 日
大宅診療所	山科区大宅早稲ノ内町 2	1984 年 7 月 2 日 (法人開設) 2002 年 3 月 1 日
田中デイサービスセンター	左京区田中玄京町 106-2	2011 年 3 月 1 日開所 2016 年 7 月 31 日廃止
介護老人保健施設茶山のさと	左京区田中上大久保町 15	2011 年 11 月 3 日開所
訪問看護ステーションひまわり	山科区小野西浦68-8 レジデンス1階	2014 年 7 月 1 日開所
ケアプランセンター虹	奥	2014 年 10 月 1 日移行
ヘルパーステーション七まと	山科南総合ケアステーション内	2014 年 10 月 1 日移行 2018 年 3 月 31 日廃止

2) 施設数の推移

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
病院	1	1	1	1	1	1	1	1	1
医科診療所	6	5	5	5	5	5	5	5	5
歯科診療所(併設)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
訪問看護ステーション	3	3	3	2	3	3	3	3	3
ヘルパー派遣事業	2	2	2	2	3	3	3	2	2
デイサービスセンター	2	3	3	3	3	3	2	2	2
介護老人保健施設		1	1	1	1	1	1	1	1
施設数合計	15	16	16	15	17	17	16	15	15

3) 介護保険指定事業所 本年度は変更ありませんでした。

サービス種別	事業所名	指定年月日	事業者番号	備考	
(介護予防)訪問介護 (京都市介護予防・日常生活支援事業)	こでまり	00/4/1	60690021	たんぼぼ併設	
	くるみ	01/2/1	60890035	どんぐり併設	
	大宅診療所	02/6/1	14102230	診療所併設 14/9/30 移行	
	とまと	02/6/1	64190085	14/10/1 大宅診より移行 18/3/31 廃止	
(介護予防)訪問看護	たんぼぼ	00/4/1	60690021		
	ひまわり	01/7/1	60690070	14/2/28 付け廃止	
	どんぐり	00/4/1	60890035		
	洛北診療所	00/4/1	10606093	診療所併設 みなし指定	
	大宅診療所	02/3/1	14102230	診療所併設 みなし指定	
	ひまわり	14/7/1	64190085	14/7/1 新規開設	
(介護予防)通所介護 (京都市介護予防・日常生活支援事業)	高原デイサービス	03/4/1	70600440	定員 25 名	
	泉涌寺湯デイサービス	03/4/1	70800198	定員 22 名	
	田中デイサービス	11/3/1	70600713	定員 15 名 16/7/31 廃止	
(介護予防)通所リハビリ	第二中央病院・なの花 り	00/4/1 09/3/1 12/11/21	10601342	定員 40 名 みなし指定 定数 30 名 2 単位に変更 定員 30 名 1 単位に変更 16/5/31 付け廃止	
	あすかい診療所	16/6/1	10606342	定員 35 名 みなし指定	
	川端診療所	00/4/1 09/3/1 16/4/1	10604080	定員 20 名 みなし指定 定数 30 名 2 単位に変更 定員 35 名 2 単位に変更	
	東山診療所	00/4/1	10803013	定員 28 名 みなし指定	
	大宅診療所	02/3/1	14102230	定員 20 名 みなし指定	
	介護老人保健施設茶山のさと	11/11/3	50680099	定員 30 名 (2013 年 4 月 1 日より定員 35 名)	
	(介護予防)短期入所 療養介護	第二中央病院	00/4/1 11/11/2	10601342	11/11/2 廃止
		介護老人保健施設茶山のさと	11/11/3	50680099	開設
居宅支援事業	川端診療所	00/4/1	10604080	開設	
	大宅診療所	02/3/1	14102230	診療所併設 14/9/30 移行	

	ケアプランセンター虹	02/3/1	64190085	14/10/1 大宅診より移行
	どんぐり	00/4/1	60890035	開設
	ケアプランセンター飛鳥井	00/4/1	70600572	06/10/1 第二より移行
(介護予防)訪問リハ	あすかい病院	10/1/1	10601342	みなし指定
	東山診療所	16/10/1	10803013	みなし指定
(介護予防)居宅療養管理指導	あすかい病院・あすかい診療所・あすかい歯科・川端・洛北・大宅・東山	00/4/1		みなし指定 あすかい診 16/3/31 廃止、第二中央病院へ 16/4/1 移行
介護予防支援事業	京都市左京南地域包括支援センター	06/4/1	00600023	開設
介護療養型老人保健施設	介護老人保健施設茶山のさと	11/11/3	50680099	開設

(3) 共同組織の状況 略

(4) 役員の状況 略

(5) 常勤職員の状況(各年度期末現在数) 略

【3】経営の概要

(1) 経営活動の結果

2018年度は経常利益で67,823千円となり、予算に対して33,346千円の超過達成となった。もともと2018年度予算は、予算作成時に資金計画上の必要利益から予算目標を50,000千円として努力してきたが届かず、理事会でも予算=34,477千円としたものの、目標利益50,000千円は追及すると確認してきた経過があり、その目標利益50,000千円を17,823千円超過達成したのは大きい。また、2018年度は南館建設の最終年でもあり、多額の除却損は発生しないが、固定資産取得による消費税の特損(52,385千円程度)と近畿高等看護学校の損失補填の特損処理は当初より予定していたものであり、目標利益の50,000千円を達成しても純利益は赤字の予想をしていたので、当期純利益で9,343千円の黒字は非常に大きな成果となりました。

経常利益で予算・目標利益を超過達成したものの、その特徴として事業収益は予算比で98.4%(△88,519千円)と予算に乖離しており、事業費用で予算比97.8%(△124,711千円)と事業収益の予算不足以上に抑えたことによるものです。特に人件費は予算比で96.2%(△160,844千円)、前年実績比でも99.5%(△21,524千円)となっています。時間外対策の中で、時間外が削減されてきていることも大きいですが、職員総数が減少していることが大きく影響しています。2018年4月の給与支給人員は常勤=512名・非常勤=392名合計904名、2019年3月の給与支給人員で常勤=490名・非常勤=368名合計858名、2019年4月の給与支給人員で常勤=507名・非常勤=375名合計882名です。3月末の時点での決算見通しは、「予算は超過達成するが目標利益の50,000千円には届かない」でしたが、決算修正での特徴からも人件費関連の減額修正の影響は大きい。2017年度末、2018年度期中でも84%を超過していた人材委比率も最終で83.1%となりました。

業態別で見ると、医科事業所全体で大幅に予算を達成し、前年比較でも大きく超過することとなりましたが、介護事業所全体では、予算に大きく乖離し前年実績にも届かないという結果となりました。

医科事業所

医科事業所でも、病院は予算・前年ともに大きく超過ですが、診療所全体としては予算・前年ともに未達成という結果となっています。大宅診療所と洛北診療所のみ予算未達・前年実績に届きませんでした。洛北診療所は、所長交代の影響が大きく収益が伸びず、大宅診療所では事業収益を伸ばせない中、人員増(人件費ではあすかい診に次ぐ101.9%の伸び)の影響もあり、ともに予算・前年とも未達成となりました。東山診療所は、医師体制などにより在宅管理件数を制限しての予算だったため、在宅収益が前年実績に届いていないが予算達成となっています。予算・前年ともに超過達成は、病院と川端診療所となっています。川端は事業収益で予算・前年実績ともに未達ですが、人員不足(予算比92.6%前年比94.3%)の影響が大きくなっています。引き続き透析・外来での収益減はすすんでいます。一方で通所リハビリの見直し(要求に合わせての短時間)により、介護収益は予算・前年ともに大きく増加し、医業収益減の

影響を抑えています。病院は、南館建設の遅れや看護師不足などにより南館リニューアル最大の特徴である「緩和ケア」開設の遅れもあり、まだまだ十分な到達ではないが、時間外削減などの人件費減(予算比 95.8%前年比 99.1%人件費率 71.6%)の効果もあり、予算・前年実績超過となっています。

介護事業所

介護事業所では、南包括・STくみで予算達成・前年実績超過となったものの、その他の事業所で予算達成はなく、多くの事業所で予算未達成・前年実績を下回る結果となり苦戦しました。

訪問看護STは、予算達成はなりませんでしたがたんぼぼ・ひまわりで事業収益の前年実績超過の中で経常利益でも前年実績超過となっています。どんぐりは、経常利益での実績超過はなりませんでしたが、事業収益で前年実績超過となっています。茶山は、予算達成できませんでしたが、事業収益増加で計上利益の前年実績超過となりました。

事業収益は予算比 98.4%・△88,519 千円、前年実績との比較では 101.4%となり 77,014 千円の超過となりました。

収益構成は医業 77.6%・介護 22.4%、2017 年度の田中DSの統廃合、2018 年度のヘルパーSTとまとの閉所の影響や介護改定の影響による介護の苦戦などで、介護収益の比率がさらに下がり、医業収益の比率が増加しています。

前年比較では、事業収益全体では 101.4%+77,014 千円と前年実績超過しました。うち医業収益は 101.8%+78,223 千円、介護は 99.9%△1,208 千円となっています。ただし 2017 年度の介護収益の実績には閉所したヘルパーSTとまとの収益(12,644 千円)が含まれているため、実質的には 11,436 千円の介護収益の増加となっています。

入院分野は、南館建設工事の遅れや看護師不足に伴う「緩和ケア病棟」フルオープンが遅れなどがあり予算比 99.5%△11,605 千円となったものの、前年比 102.7%+55,319 千円と伸ばしました。障害者病床の廃止を想定しての長期入院の解消の努力、地域包括ケア病床の活用、類上げに伴う入院収益の増加などの努力の中での成果といえます。

外来分野は、外来収益で予算比 100.7%10,037 千円超過しましたが、前年実績比 99.96%で△488 千円となりました。ただし、予算超過は病院とあすかい診療所と東山診療所だけであり、他の事業所では予算に届いておらず、病院の予算超過額により全体として予算超過したといえます。また前年実績比較では病院でも前年実績比 98.9%△7,083 千円届いておらず、南館 3 期工事での外来受付の変更が影響している可能性もあります。

在宅収益は、病院以外の医科事業所で予算に届かず、病院で予算比 107.2%+15,752 千円とするも全体として予算比 98.1%△11,935 千円届きませんでした。また前年実績比較でも、他の医科事業所では前年実績に届いておらず、病院での前年実績比 117.5%+35,130 千円により全体として前年実績比 103.6%+21,909 千円となっています。

介護分野は、全体として予算比 95.2%△63,921 千円、またすべての介護収益で予算に届きませんでした。前年実績比較では施設収益で 106.5%+19,899 千円となるも、居宅収益で 98.4%△12,401 千円(ただし、前年実績にはとまとの 12,644 千円が含まれているため実質は+243 千円)、その他介護収益 95.4%△8,811 千円となりました。こでまり、高原DS、CPあすかい、どんぐり、泉涌寺湯DSの事業所で、介護収益が予算未達成、前年実績未達成となり苦戦しています。

事業費用については、予算比 98.4%(▲124,711 千円) 前年実績比 100.4%(20,264 千円)となりました。

人件費は、予算比で 96.2%△160,844 千円と予算内となり、前年比 99.5%△+74,148 千円と定昇を加味し 2%増を想定していたにもかかわらず、前年実績を下回る結果となった。信和会全体の人件費率は、2015 年度の 71.1%、2016 年度 72.6%、2017 年度 73.3%へ増加していたが、今年度は 71.9%と 2015 年度の水準まで下がる結果となりました。特に病院での人件費率は 2017 年度の 74.5%から 71.6%へと減少してきています。

材料費は、予算比 101.8%+7,241 千円、前年実績比では 97.6%△9,947 千円。

委託費は、予算比 101.6%+3,298 千円、前年比較 98.7%△2,678 千円。

経費は、予算比 105.4%26,789 千円、前年比較では 105.0%24,816。

減価償却費は、予算比 101.5%+3,453 千円、前年比較では 109.6%+19,785 千円。

リース料は、予算比 90.5%△3,800 千円、前年比較 134.0%+9,182 千円。

【4】事業所管理委員以上の人事(18 年 4 月 1 日～19 年 3 月 31 日) 略

【5】その他、重要な処理事項

特になし。

(以上)